



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月14日

上場会社名 株式会社エムアップホールディングス 上場取引所 東
コード番号 3661 URL http://www.m-upholdings.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|-------|------|-------|------|-------|------|----------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2024年3月期第2四半期 | 8,865 | 14.2 | 1,457 | 22.7 | 1,472 | 22.7 | 795 | 24.5 |
| 2023年3月期第2四半期 | 7,764 | 23.0 | 1,187 | 53.0 | 1,200 | 43.3 | 639 | 23.8 |

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 615百万円 (△24.0%) 2023年3月期第2四半期 809百万円 (4.2%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年3月期第2四半期 | 22.02 | 21.78 |
| 2023年3月期第2四半期 | 17.68 | 17.63 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2024年3月期第2四半期 | 16,328 | 6,785 | 37.7 |
| 2023年3月期 | 16,442 | 6,657 | 37.5 |

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 6,152百万円 2023年3月期 6,164百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年3月期 | — | 0.00 | — | 10.00 | 10.00 |
| 2024年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 2024年3月期（予想） | — | — | — | 12.00 | 12.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|-----|-------|------|-------|------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 17,500 | 9.8 | 2,500 | 20.5 | 2,500 | 20.9 | 1,500 | 37.2 | 41.49 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注) 当社グループは業績管理を年次で行っていることから通期業績予想のみを開示しております。詳細は、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社Dear U plus、除外 1社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2024年3月期2Q | 36,496,388株 | 2023年3月期 | 36,496,388株 |
| ② 期末自己株式数 | 2024年3月期2Q | 439,371株 | 2023年3月期 | 339,345株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2024年3月期2Q | 36,131,888株 | 2023年3月期2Q | 36,153,764株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）5ページ「1.当四半期決算に関する定性情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 4 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 5 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 7 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 7 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 9 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 10 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 11 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 11 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 11 |
| (セグメント情報等) | 12 |
| (収益認識関係) | 13 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用、所得環境の改善のもとで、個人消費も持ち直すなど、緩やかな回復が続くことが期待されております。一方で今後の先行きについては、為替相場の変動や物価高、それに伴う消費者マインドの動向など、景気を下押しするリスクに留意する必要があります。

当社グループの事業領域であるインターネット関連市場は、第5世代移動通信システムなどネットワークインフラの高度化が進み、高速で信頼性の高い接続サービスが普及する中で今後の新たな市場やビジネスの創生とさらなる市場拡大への期待が高まっております。また、社会のデジタル化やエンタテインメントの分野をはじめとした各種サービスのデジタルシフトも急速に進んでおります。

こうしたテクノロジーの進化や新たなビジネス、サービスの創出は加速しており、事業環境は目まぐるしく変化しております。

音楽やアーティスト関連の市場について、2023年上半期（1月から6月）の音楽ソフト（オーディオレコード及び音楽ビデオ合計）の生産金額は1,169億円（前年同期比20.2%増）と、着実な回復を見せております（出所：一般社団法人日本レコード協会）。加えて、ストリーミングサービスの利用の増加に牽引され音楽配信も引き続き好調であり、堅調な音楽需要に支えられ市場は拡大しております。

ライブ、コンサート市場は、2022年の公演回数が32,338回（前年同期比22.6%増）、動員数は4,831万人（前年同期比111.5%増）と、収容人数制限が緩和されたことで大規模会場の公演が本格的に再開され、公演数ではコロナ前を上回り回復のペースが加速しており、再び成長軌道へと回帰しております（出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会）。

音楽市場の中でも特にライブ、コンサートを筆頭とした従来からのエンタテインメントのフォーマットにおいては、有料のライブ配信やサブスクリプション型のストリーミングが普及、拡大するなど、デジタルシフトが急速に進み事業環境は変化しております。今後は、そうした事業環境の変化を的確に捉え、競争力を維持、向上させていくことがより重要となってきております。

このような外部環境の中、当社グループでは、アーティストを中心としたエンタテインメント全般を事業領域とし、ファンクラブサイトを事業の軸に据えファンという強固な事業基盤を構築し、電子チケットやeコマース、キャラクター、音楽などの多岐にわたるデジタルコンテンツの配信など複合的な事業展開をしてまいりました。

加えて、エンタテインメントのデジタル化、DX化など事業環境の変化に対応すべく、新規サービスの開発や提供も積極的に推進し、ファンエンゲージメントの強化とそれによる収益の拡大を図るとともに、子会社等を通じた他社との事業提携、並びに新たな事業領域の開拓にも積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は8,865百万円（前年同期比14.2%増）、営業利益は1,457百万円（前年同期比22.7%増）、経常利益は1,472百万円（前年同期比22.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は795百万円（前年同期比24.5%増）となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

1) コンテンツ事業

a. コンテンツ事業に係るファンクラブ・ファンサイト事業等

ファンクラブ・ファンサイト事業等では、主にスマートフォン向けにファンクラブサイト運営や各種デジタルコンテンツ配信、動画サービス、アプリの提供などを行っております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、ファンクラブのプラットフォーム「Fanpla Kit」を中心に引き続き新規アーティストの獲得を進めるとともに、回復へと向かうライブ・コンサートの動きと連動し、会員向けのチケット先行受付や会員限定ライブなどにより、事業の基盤となるファンクラブ/ファンサイトの会員数を堅調に増加させることができました。

また、エンタテインメントのDX化を見据えた新たな価値の創出やファンエンゲージメントの強化によるアーティスト活動の支援を実現するため、ファン活動の発着点となるサービスも充実させてまいりました。オンラインサロン「Fanpla Rooms」、アーティストとファンの共創をコンセプトにしたクラウドファンディングサービス

「Fanpla Action」などの新規事業でも着実に取り扱いアーティストを充実させ、利用の拡大に努めてまいりました。加えて、日本市場で活躍するKPOPアーティストのファンビジネスを活性化することを目的とし提携する韓国企業との間でのファンプラットフォーム事業の準備を進めるなど、今後の事業拡大へ向けた取り組みも進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業に係るファンクラブ・ファンサイト事業等の売上高は6,611百万円(前年同期比14.8%増)となりました。

b. コンテンツ事業に係るEC事業

EC事業につきましては、主に当社グループの運営するファンクラブサイト等を通じて、アーティストグッズとCD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品の販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、アーティストグッズ販売のECへのデジタルシフトが進む中で、回復するライブやコンサートの動きと歩調を合わせ商品の取扱高を増加させ、販売は好調に推移いたしました。加えて、事業基盤を拡大させるべくファンクラブ向けのオンラインくじ「Fanpla Chance」やオンラインフォトサービスなど、新たなサービスの利用拡大にも取り組んでまいりました。

また、ウィズコロナの新たなコンサートグッズの販売方法として、コンサート会場での電子決済や事前販売・会場受取サービスの需要の高まりも引き続き見られました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業に係るEC事業の売上高は865百万円(前年同期比28.4%増)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業全体の売上高は7,476百万円(同16.3%増)、セグメント利益は1,438百万円(同22.7%増)となりました。

2) 電子チケット事業

電子チケット事業には、電子チケット及びチケットトレード、並びにそれらに付随する各種サービスからの収益により構成されております。音楽のライブはもちろんのこと、プロ野球やフィギュアスケートといったスポーツ、遊園地などのレジャー施設まで幅広く電子チケットサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、有観客でのライブ、イベントが増加していく中で、電子チケットの強みを活かしマーケットシェアを拡大させ、電子チケットの発券枚数を増加させることができました。また、コンサートの再開に伴い増加する不正転売に対応すべく、機能の追加や改善によってサービスの利便性を向上させることで、トレードによる二次流通の普及と利用促進にも努めてまいりました。加えて、プロ野球球団の公式チケット二次流通のサービスも開始し、スポーツ領域でのチケット取り扱い拡大に向けた取り組みも本格化させてまいりました。

アーティストのサイン入りのグッズなどの商品を提供するオンラインくじ「くじプラ」など、チケット1枚あたりのサービス単価の上昇を目的とした、ライブ/チケットと連動する施策やサービスについても継続的に提供を行いました。

電子チケット周辺領域のサービスといたしましては、プロ野球等のスポーツのカードコレクションアプリにおいて、新たにサービスを開始したバレーボール及び女子バスケットボールが収益に貢献するなど、主力のプロ野球以外のスポーツでの展開にも注力してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるチケット事業の売上高は1,370百万円(同3.4%増)、セグメント利益は396百万円(同17.1%増)となりました。

3) その他事業

その他事業には、上記3つのセグメントに属さない連結子会社の収益等が計上されており、主にキャラクターグッズやアパレル、プロダクション業務などが含まれております。

当第2四半期連結累計期間におきましても、将来の収益獲得に向けた事業育成を行い、売上高は18百万円(同117.8%増)、セグメント損失は22百万円(前年同四半期は26百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び株主資本の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は16,328百万円(前連結会計年度末比0.7%減)となりました。

流動資産は11,407百万円(同0.2%減)となりました。主な内訳は現金及び預金6,106百万円(同11.9%減)、売掛金2,453百万円(同31.4%増)、前払金1,041百万円(同12.6%減)となっております。

固定資産は4,921百万円(同1.8%減)となりました。主な内訳は顧客関連資産205百万円(同11.1%減)、のれん218百万円(同33.3%減)、その他無形固定資産565百万円(同15.2%減)となっております。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は9,363百万円(同2.9%減)となりました。主な内訳は買掛金4,176百万円(同8.6%減)、契約負債3,571百万円(同0.8%増)、預り金29百万円(同72.1%減)であります。

固定負債は179百万円(同28.3%増)となりました。主な内訳は資産除去債務82百万円(同108.2%増)、繰延税金負債87百万円(同3.7%減)であります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の合計は6,785百万円(同1.9%増)となりました。主な内訳は資本金317百万円(同-%)、資本剰余金3,815百万円(同0.0%減)、利益剰余金3,090百万円(同16.3%増)、その他有価証券評価差額金△730百万円(同71.8%増)であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は6,156百万円(前連結会計年度末比822百万円減)となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは131百万円となりました。

主な内訳は税金等調整前四半期純利益1,472百万円、売上債権の増加△586百万円、前払金の減少150百万円、未収入金の減少208百万円、前払費用の増加△626百万円、仕入債務の減少△394百万円、未払金の増加397百万円、法人税等の支払△571百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは△468百万円であり、主な内訳は投資有価証券の売却による収入99百万円、投資有価証券の取得による支出△354百万円、敷金の差入による支出△136百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは△485百万円であり、支出の主な内訳は配当金の支払額△360百万円、自己株式の取得による支出△139百万円です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限等が解除され、緩やかに回復していくことが期待されておりますが、原材料やエネルギー価格の高騰に伴う物価高や金融資本市場の変動や中東情勢など国内外に経済を下振れさせるリスクも懸念されており、先行きは一部に不透明も残っております。

当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンを通じたサービス消費が増加しており、市場も大きく拡大しております。また、第5世代移動通信方式(5G)の普及が本格化し始めるなど、モバイル及びインターネット関連ビジネスを取り巻く環境は日々変化しております。

一方で、音楽やアーティスト関連市場については、イベント開催やその収容人数等への制限が解除される中で、回復への動きが加速しております。

こうした事業環境の中、当社はファンという強固な顧客基盤を持ち、技術及び市場動向の影響を受けにくい、アーティストを中心としたファンクラブ/ファンサイトを事業の軸に据え、有料会員数を増加させるべく新規アーティスト等の継続的な発掘と獲得を行っております。また、電子チケットとチケットトレード、ECといった各種サービスとも連動させることで、ファンエンゲージメントをさらに高め顧客であるファン一人あたりの売上高を上昇させることでさらなる成長を目指しております。

コンテンツ事業においては、会員獲得の間口を広げるべく、アーティストとファンの距離をより近づけ、ファンクラブ入会への動機づけをするためのポータルメディア「Fanpla」や、アーティストの規模に関わらずアーティストなら誰でもファンクラブを開設することのできるサービスとして「Fanpla Kit」も提供し、ファンクラブのメディア化、プラットフォーム化と新規アーティストの獲得力の強化を推進してまいります。また、コロナ禍をきっかけとしたアーティストとファンの関わりの変化をはじめ、エンタテインメントのDX化を見据えた新たな価値の創出によるアーティスト活動の支援を実現するため、ファン活動の発着点となるアーティストアプリも充実させております。加えて、海外との往来の再開を見据えファンクラブ/ファンサイトの中国をはじめとした海外展開も加速させていくことも予定しております。

電子チケット分野においては、プロ野球等のスポーツ向け「カードコレクション」や、アーティストのサイン入りのグッズなどの商品を提供するオンラインくじ「メモコレ」、1on1イベントを実現するライブトークアプリ「Meet Pass ライブトーク」など、電子チケット周辺領域のサービスを拡充させることで顧客単価の上昇に取り組むとともに、大手プレイガイドとの連携により事業全体の基盤を固めてまいりました。

今後においても拡大させてきた事業基盤のもとで、ライブ、コンサートのさらなる回復とともに、電子チケット並びにトレードサービスの普及とマーケットシェアの拡大に務めるとともに、大手プレイガイドとのさらなる連携についても引き続き推進してまいります。

加えて、VRを中心とした先端表現技術を用いたライブ動画の制作や配信やNFTのマーケットプレイスなど新たな事業領域の開拓や、子会社等を通じた他社との事業提携、並びに韓国ファンプラットフォーム企業との合弁会社など、新規事業の開発にも積極的に取り組んでまいります。

以上の通り当社は、ファンという強固な事業基盤をベースにしながら、ファンエンゲージメントの強化と新規事業の展開により、顧客価値を増加させ継続的に成長していくことを目指しております。新規に開設したファンクラブ/ファンサイトの会員獲得が順調に進み、既存のサイトでもアーティストの活動状況と歩調をあわせ会員が増加するなど、事業基盤となる会員数を着実に増加させてまいりました。また、一次流通及び二次流通の電子チケットなど収益性の高い事業からの売上構成割合が拡大したことで、全社的な収益率も向上しております。

費用面では、販売に比例し発生するロイヤリティや業容の拡大に伴う採用の強化による人材関連費用の増加、オフィスの増床に伴う賃料の増加、新規事業への開発投資などを見込んでおります。

以上により、今期(2024年3月期)の見通しについては、売上高17,500百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益2,500百万円(前年同期比20.5%増)、経常利益2,500百万円(前年同期比20.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1,500百万円(前年同期比37.2%増)を見込んでおります。

当第2四半期連結累計期間については、ライブ、コンサートの着実な回復のもと、想定通りに会員数の獲得が進み、また電子チケットの取り扱いも好調に推移したことで、特に利益面において業績見通しに対して高い進捗率となっております。今後についてもこのトレンドが継続するものと想定しており、加えて会員規模の大きいファンク

ラブの開設等も予定しております。また、韓国ファンプラットフォーム企業との合弁会社による新規サービスの開始や、中国でのファンクラブ展開の準備も順調に進んでおり、これら業績見直しには含まれない新規事業からの収益貢献も期待されます。業績予想については、今後の事業動向を踏まえて適宜見直していく方針です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 6,929 | 6,106 |
| 売掛金 | 1,866 | 2,453 |
| 商品 | 11 | 15 |
| 仕掛品 | 1 | 1 |
| 貯蔵品 | 15 | 31 |
| 前払金 | 1,192 | 1,041 |
| その他 | 1,416 | 1,757 |
| 貸倒引当金 | △0 | 0 |
| 流動資産合計 | 11,432 | 11,407 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 993 | 1,103 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 327 | 218 |
| 顧客関連資産 | 231 | 205 |
| その他 | 667 | 565 |
| 無形固定資産合計 | 1,226 | 989 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,046 | 2,002 |
| その他 | 818 | 895 |
| 貸倒引当金 | △75 | △69 |
| 投資その他の資産合計 | 2,790 | 2,827 |
| 固定資産合計 | 5,010 | 4,921 |
| 資産合計 | 16,442 | 16,328 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 4,571 | 4,176 |
| 未払金 | 376 | 774 |
| 未払法人税等 | 571 | 527 |
| 預り金 | 106 | 29 |
| 契約負債 | 3,542 | 3,571 |
| 賞与引当金 | 61 | 27 |
| 役員賞与引当金 | 170 | 73 |
| その他 | 244 | 183 |
| 流動負債合計 | 9,646 | 9,363 |
| 固定負債 | | |
| 資産除去債務 | 39 | 82 |
| 繰延税金負債 | 90 | 87 |
| その他 | 9 | 9 |
| 固定負債合計 | 139 | 179 |
| 負債合計 | 9,785 | 9,542 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 317 | 317 |
| 資本剰余金 | 3,816 | 3,815 |
| 利益剰余金 | 2,656 | 3,090 |
| 自己株式 | △200 | △340 |
| 株主資本合計 | 6,589 | 6,883 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △425 | △730 |
| その他の包括利益累計額合計 | △425 | △730 |
| 新株予約権 | 30 | 30 |
| 非支配株主持分 | 461 | 602 |
| 純資産合計 | 6,657 | 6,785 |
| 負債純資産合計 | 16,442 | 16,328 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 7,764 | 8,865 |
| 売上原価 | 5,219 | 5,863 |
| 売上総利益 | 2,545 | 3,001 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,357 | 1,544 |
| 営業利益 | 1,187 | 1,457 |
| 営業外収益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 7 | 1 |
| 受取賃貸料 | 1 | 3 |
| 受取手数料 | 7 | 5 |
| 為替差益 | - | 0 |
| 貸倒引当金戻入額 | - | 5 |
| その他 | 0 | 2 |
| 営業外収益合計 | 17 | 17 |
| 営業外費用 | | |
| 為替差損 | 0 | - |
| 暗号資産売却損 | 0 | - |
| 支払手数料 | 3 | 2 |
| その他 | 0 | 0 |
| 営業外費用合計 | 4 | 2 |
| 経常利益 | 1,200 | 1,472 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,200 | 1,472 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 411 | 510 |
| 法人税等調整額 | 41 | 42 |
| 法人税等合計 | 452 | 552 |
| 四半期純利益 | 748 | 920 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 109 | 124 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 639 | 795 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 748 | 920 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 60 | △305 |
| その他の包括利益合計 | 60 | △305 |
| 四半期包括利益 | 809 | 615 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 699 | 490 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 109 | 124 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) |
|----------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,200 | 1,472 |
| 減価償却費 | 102 | 143 |
| のれん償却額 | 109 | 109 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | 0 | △5 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | △28 | △34 |
| 役員賞与引当金の増減額 (△は減少) | △120 | △97 |
| 投資有価証券売却損益 (△は益) | △7 | △1 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △629 | △586 |
| 立替金の増減額 (△は増加) | △95 | 8 |
| 前払金の増減額 (△は増加) | △1,405 | 150 |
| 未収入金の増減額 (△は増加) | △245 | 208 |
| 前払費用の増減額 (△は増加) | △580 | △626 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △489 | △394 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | △44 | 397 |
| 預り金の増減額 (△は減少) | △219 | △76 |
| 契約負債の増減額 (△は減少) | 377 | 28 |
| その他 | △44 | △53 |
| 小計 | △2,120 | 642 |
| 利息の受取額 | 0 | 0 |
| 法人税等の支払額 | △387 | △571 |
| 法人税等の還付額 | 219 | 60 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △2,289 | 131 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △3 | △83 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △551 | △1 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △2,561 | △354 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 2,559 | 99 |
| 貸付金の回収による収入 | 2 | 7 |
| 貸付けによる支出 | △1 | △2 |
| 敷金の差入による支出 | - | △136 |
| その他 | 1 | 3 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △553 | △468 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 非支配株主からの払込みによる収入 | 103 | 24 |
| 自己株式の取得による支出 | - | △139 |
| 配当金の支払額 | △252 | △360 |
| 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出 | - | △9 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △149 | △485 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 0 | 0 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △2,992 | △822 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 6,742 | 6,978 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,749 | 6,156 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年8月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式100,000株の取得を行いました。この結果、自己株式が140百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が340百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-------------------|-------------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|--------------------------------|
| | コンテンツ 事業 | 電子チケット 事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 6,431 | 1,325 | 7,756 | 8 | 7,764 | - | 7,764 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 35 | 13 | 49 | 1 | 50 | △50 | - |
| 計 | 6,466 | 1,339 | 7,805 | 9 | 7,815 | △50 | 7,764 |
| セグメント利益又は損失(△) | 1,172 | 338 | 1,511 | △26 | 1,484 | △296 | 1,187 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△296百万円には、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△304百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-------------------|-------------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|--------------------------------|
| | コンテンツ 事業 | 電子チケット 事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 7,476 | 1,370 | 8,847 | 18 | 8,865 | - | 8,865 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 22 | 14 | 37 | 2 | 39 | △39 | - |
| 計 | 7,499 | 1,384 | 8,884 | 20 | 8,904 | △39 | 8,865 |
| セグメント利益又は損失(△) | 1,438 | 396 | 1,835 | △22 | 1,813 | △356 | 1,457 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△356百万円には、セグメント間取引消去△20百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△335百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他(注) | 合計 |
|------------------|---------|----------|-------|--------|-------|
| | コンテンツ事業 | 電子チケット事業 | 計 | | |
| ファンクラブ・ファンサイト事業等 | 5,756 | - | 5,756 | - | 5,756 |
| E C事業 | 674 | - | 674 | - | 674 |
| 電子チケット事業 | - | 1,325 | 1,325 | - | 1,325 |
| その他 | - | - | - | 8 | 8 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 6,431 | 1,325 | 7,756 | 8 | 7,764 |
| その他の収益 | - | - | - | - | - |
| 外部顧客への売上高 | 6,431 | 1,325 | 7,756 | 8 | 7,764 |

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アパレルやプロダクション事業が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他(注) | 合計 |
|------------------|---------|----------|-------|--------|-------|
| | コンテンツ事業 | 電子チケット事業 | 計 | | |
| ファンクラブ・ファンサイト事業等 | 6,611 | - | 6,611 | - | 6,611 |
| E C事業 | 865 | - | 865 | - | 865 |
| 電子チケット事業 | - | 1,370 | 1,370 | - | 1,370 |
| その他 | - | - | - | 18 | 18 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 7,476 | 1,370 | 8,847 | 18 | 8,865 |
| その他の収益 | - | - | - | - | - |
| 外部顧客への売上高 | 7,476 | 1,370 | 8,847 | 18 | 8,865 |

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アパレルやプロダクション事業が含まれております。